

## 旧広島陸軍被服支廠に係る活用の方向性のとりまとめ等について

### 1 要旨・目的

旧広島陸軍被服支廠の活用について、「第 6 回旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会」（以下「第 6 回懇談会」という。）を開催し、実現可能性のあるアイデアを「活用の方向性」として、複数案取りまとめたので、その内容について報告する。

併せて、旧広島陸軍被服支廠の安全対策工事の実施設計業務と建築物の価値調査について、「第 3 回旧広島陸軍被服支廠 安全対策・価値調査等検討会議」（以下「第 3 回検討会議」という。）を開催し、意見を聴取した上で、内容を取りまとめたので、報告する。

### 2 現状・背景

建物の安全対策を進める必要があることから、耐震性を確保しつつ、内部見学などの利用が可能となる安全対策と最小限の利活用を同時に実現させるために、建物 3 棟の安全対策の実施設計業務を実施した。

併せて、重要文化財の指定に向けて、建築物の価値調査を実施した。

また、重要文化財の指定を見据え、指定後に必要となる建物の管理・活用の方向性等を定める保存活用計画の検討を進めるため、有識者等で構成する懇談会を設置・開催し、活用の方向性について、取りまとめた。

### 3 活用の検討に係る取組の概要

#### (1) 第 6 回懇談会の開催について

- ア 実施主体：県
- イ 日時：令和 5 年 3 月 13 日（月）15 時～16 時
- ウ 場所：県庁本館 R 3 会議室
- エ 出席委員：コア委員 7 名
- オ 実施内容

#### 議題：活用の方向性に係る報告について

これまでのワークショップでの意見や懇談会での議論を踏まえ、委員で意見交換を行い、今後の活用の方向性を取りまとめた。

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 将来にわたって守り続けるためには、次の視点が重要であることを確認した。<ul style="list-style-type: none"><li>・被服支廠の存在を活かしていくこと</li><li>・被服支廠の価値を継承していくこと</li><li>・歴史と平和の大切さを伝えていくこと など</li></ul></li><li>○ 被服支廠を活用し続けるためには、次の視点が重要であることを確認した。<ul style="list-style-type: none"><li>・被服支廠の存在・価値を県民で共有し広めること</li><li>・多様な人、主体（行政・団体・民間事業者・個人）が参画し協働で取り組むこと</li><li>・持続可能な活動を支える資金を確保していくこと</li><li>・時代の変化に対応した活用をしていくこと など</li></ul></li></ul>

(2) 活用の方向性のとりまとめ内容

活用の方向性	活用アイデアの例
<b>県民・来訪者の 交流促進を目指した 文化や芸術、 生涯学習等の拠点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館、子供図書館</li> <li>・ アトリエ、工房、アート作品の展示施設</li> <li>・ 文化ホール、劇場 ・ スモールオフィス、サテライトオフィス</li> <li>・ マルシェ、フリーマーケットなどの開催</li> <li>・ 建物の周囲を活用した公園、空間広場</li> <li>・ 子育て支援施設 ・ eスポーツ、アーバンスポーツ施設</li> </ul>
<b>広島 naturally や歴史・文化、 平和等を学べる拠点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然史、歴史博物館 ・ 平和資料館 ・ 文学館</li> <li>・ 学習施設、研究施設 ・ 教育活動、ボランティア活動の拠点</li> </ul>
<b>国内外の人々が訪れ、 県民と繋がり、 広島を体感するための 拠点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホテル、合宿所、ユースホステル</li> <li>・ イベント会場、コンベンション施設 ・ 観光センター</li> <li>・ ピースツーリズムの拠点 ・ 服飾デザイン博物館</li> </ul>

※ 活用アイデアの例は、ワークショップや懇談会で出たアイデアであり、活用を決定したものではない。

(3) 活用の検討に向けた今後の進め方について

取りまとめた「活用の方向性」を基礎として、国・県・広島市で構成する「旧陸軍被服支廠の保存・継承にかかる研究会」において検討を進める。

4 安全対策等に係る取組の概要

(1) 第3回検討会議の開催状況について

ア 実施主体：県

イ 日時：令和5年3月18日（土）13時～14時

ウ 場所：県庁自治会館 101会議室

エ 出席委員：委員5名出席

オ 実施内容

文化財指定に向けた価値調査及び安全対策工事に伴う実施設計について、とりまとめ案を説明し、意見を聴取した。

説明に対する各委員からの主な意見は次のとおりであった。

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の調査により、旧広島陸軍被服支廠の文化財的価値が整理されたことを確認できた。</li> <li>・ 実施設計の内容についても、文化財的価値、歴史的価値を尊重しつつ、安全性を確保できるものであることを確認できた。</li> <li>・ こうしたことから、文化財指定に向けた価値調査及び安全対策工事に係る実施設計について、報告された内容について、適切なものであると認められる。</li> </ul>

### 主な意見

- ・歴史的建造物については、一般的に、建物の耐震補強や改修工事を実施する間に、新たな発見などが得られることも多々ある。工事の際には、慎重にこうした文化財的価値を見落とさないよう、進められることを希望する。
- ・瓦なども含めて、工事の中で補修すれば再利用できそうなものはきちんと残して、適切な場所に再設置するということを前提に保存しておいてほしい。
- ・雨水等の浸入により、建物の劣化が現在も進行しており、建物の安全性の確保や劣化防止について、早急な対応をなるべく早く検討いただきたい。
- ・今回、提案された工事内容は、見学に供する必要最小限度の補強であり、活用の内容に応じて新たな補強を加えることが非常にやりやすい内容である。活用の内容が見えてきた段階で、保存活用計画の策定が視野に入ってくると思うので、こうしたことも念頭に今後の工事が進んでいくことを希望する。

## (2) 建築物の価値調査のとりまとめ結果

検討会議の意見を踏まえて、重要文化財の指定に必要な被服支廠の歴史的・文化財的価値を、次のように整理した。

特質	評価
<b>旧日本陸軍軍事施設としての特質</b>	被服支廠倉庫は、軍都と呼ばれた広島に現存する旧日本陸軍の軍事施設で、日露戦争後に旧日本陸軍が策定した兵站施設計画をもとに建設された旧日本陸軍兵站施設として、旧陸軍兵站史を知るうえで重要な遺構である。
<b>倉庫建築としての特質</b>	国内の倉庫建築の遺構の中で、鉄筋コンクリート造としては国内最古級であり、また、旧日本陸軍軍事施設の遺構として、4棟がそのまま残り、500mに及ぶ特徴的な景観を形成しており、他に類を見ず歴史的価値が高い。
<b>建造物としての特質</b>	主構造に当時先進的な鉄筋コンクリート工法を採用し、外壁に煉瓦造を併用する高度な建築技術が用いられ、旧日本陸軍営繕組織の設計技術の高さが反映されている。
<b>被爆遺構としての特質</b>	鉄扉など被爆の痕跡ととともに、救護施設として数多くの被爆者を受け入れた歴史を持ち、被爆建物としても歴史的価値が高い。

## (3) 文化財指定に向けた今後の進め方について

文化庁もオブザーバーとして参加した検討会議において、被服支廠の1～3号棟については、文化財としての価値を確認していただき、了承を得たところであり、県としては、文化財指定の可能性は高いものと考えている。

ただし、文化財指定については、国（中国財務局）所有の4号棟を含む4棟を対象とされることから、今後、国において実施される4号棟の価値調査の状況によっては、文化財指定にはさらに年数を要する見込みであり、引き続き文化庁等と連携して取り組んでいく。

(4) 安全対策に係る実施設計のとりまとめ結果について

令和2年度詳細調査で整理したパターン2の案を基本として、詳細な設計を行い、検討会議の意見をふまえて、別紙のとおり取りまとめた。

(5) 安全対策工事の今後の進め方について

実施設計の結果を基に国・広島市との費用負担に係る調整を進める。

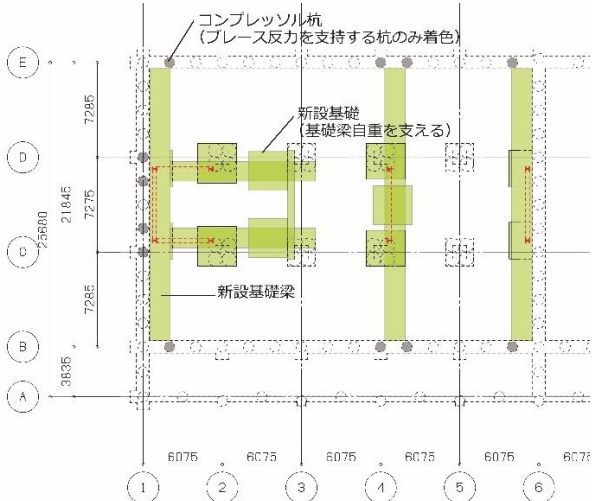
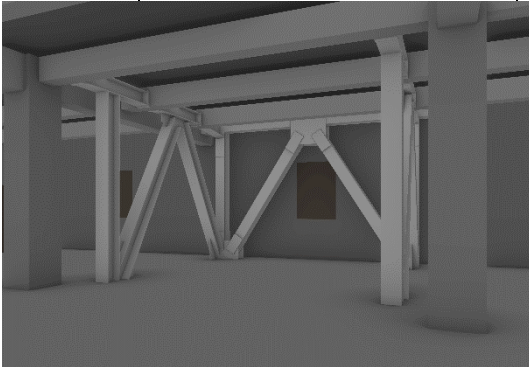
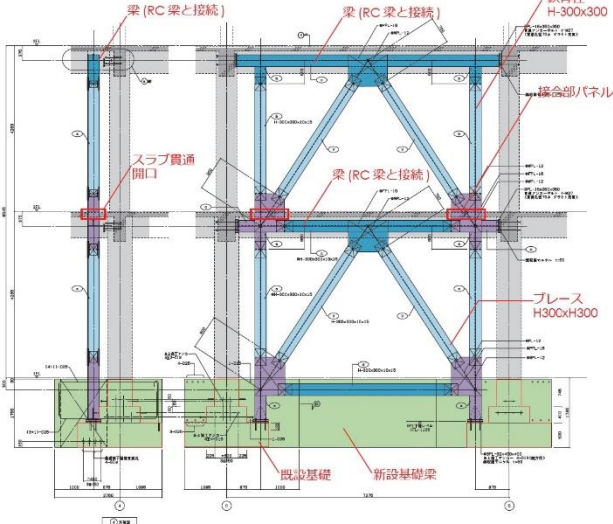
5 予算（単県）

旧広島陸軍被服支廠安全対策等事業（事業期間：R3・R4）（単位：千円）

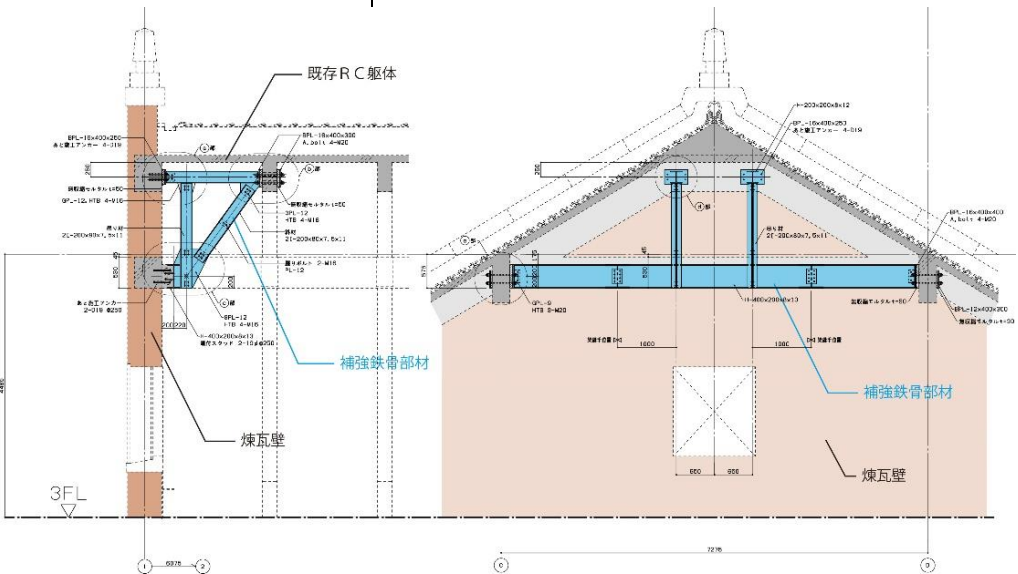
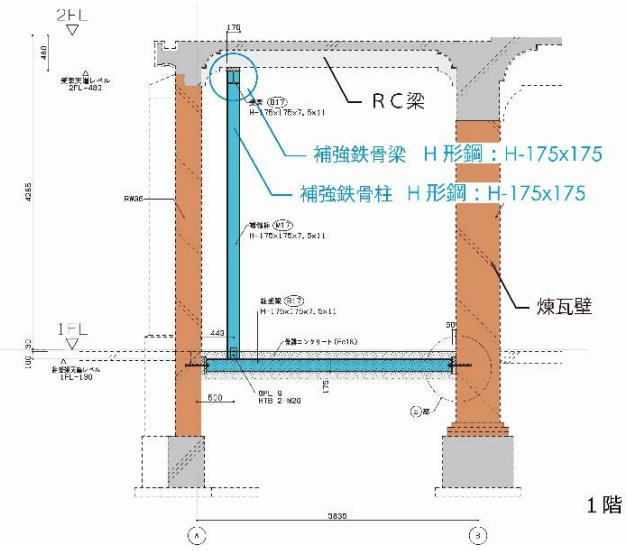
区分	令和3年度 (最終予算)	令和4年度 (最終予算)	計（令和3・4）
安全対策に係る実施設計	30,888	82,309	113,197
重要文化財指定に向けた建築物の価値調査	18,766	19,954	38,720
活用の方向性のとりまとめ	9,526	11,462	20,988
計	59,180	113,725	172,905

6 その他（関連情報等）

[旧広島陸軍被服支廠 | 広島県 \(hiroshima.lg.jp\)](http://hiroshima.lg.jp)

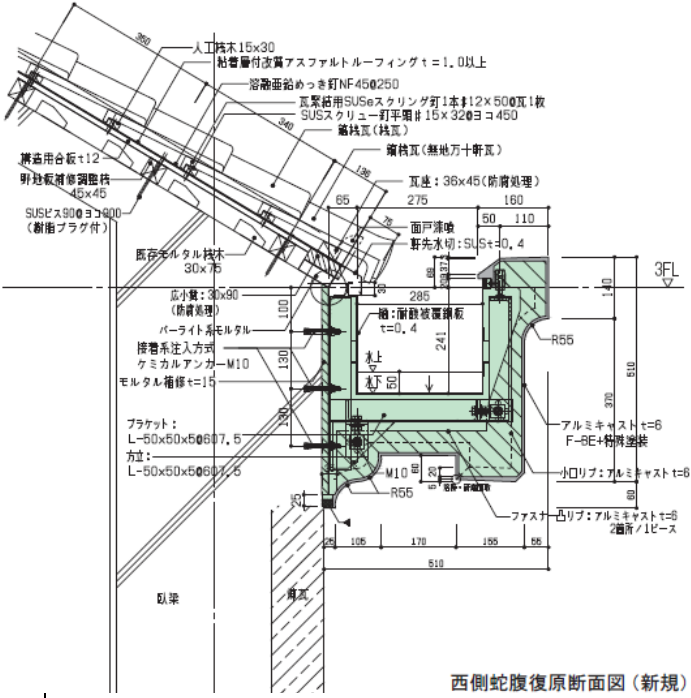

区分	耐震補強等の考え方 (R2 詳細調査)	安全対策等工事の内容 (R4 実施設計)
耐震補強等	<p>①煉瓦壁の補強等</p>	<p>○ 煉瓦壁の強度は高く、地震等による倒壊の可能性は低く、「PC鋼棒」による煉瓦壁補強を行う必要性は認められない。(⑦を除く)</p> <p>○ 煉瓦壁や建物内部の煉瓦耐力壁の亀裂について、補修材を注入し補修する必要がある。</p>
	<p>②基礎の補強等</p>	<p>○ ③の鉄骨ブレースの強度を確保するため、鉄骨ブレース設置個所の基礎部分に地中梁を追加する。</p> 
	<p>③鉄骨ブレースの設置</p> 	<p>○ 通し柱によって、1・2階を一体として設置する鉄骨ブレースを10か所/棟設置する。</p> 



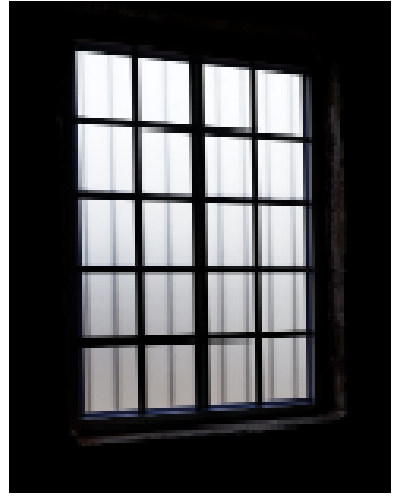
区分	耐震補強等の考え方 (R2詳細調査)	安全対策等工事の内容 (R4実施設計)
耐震補強等	<p>⑦ 建物妻壁の補強</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建物の南北の妻壁について、3階部分の亀裂に対する補強を行うため、鉄骨ブレースやRC壁の設置が必要である。</li> <li>○ 特に、3号棟3階南側妻壁は、市道等に面しており、特に安全に配慮して、鉄骨による追加補強が必要である。 (早急な対応が必要)</li> </ul>	<p>○ 妻壁上部に鉄骨ブレースを設置するとともに、煉瓦壁の亀裂補修を実施する。</p> 
	<p>【追加】 ・前室の補強</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 屋根のコンクリートがはく落するなど劣化の進行が著しい前室について、煉瓦壁及び屋根スラブを鉄骨で補強する。</li> <li>○ 下屋(前室)の屋根スラブについて、シート防水を行う。</li> </ul> 

区分	耐震補強等の考え方 (R2詳細調査)	安全対策等工事の内容 (R4実施設計)
非構造部材の修繕等	<p>⑧屋根瓦・下地や軒先(雨樋)部分の撤去・新設等</p> <p>○ 屋根瓦と下地等を撤去し、既存瓦の一部利用も含め、葺き替えが必要である。</p>	<p>○ 屋根瓦及び屋根スラブの上のモルタル製の栈木は創建当初のものと推定される。</p> <p>○ 屋根瓦については、再利用可能なもの(約10%)を3号棟東側の屋根に使用する。1・2号棟及び3号棟の残りの部分は、新しい瓦により葺き直す。</p> <p>○ 屋根スラブのモルタル栈木はすべて保存することとし、栈木の上に木製の下地を設ける。</p>
	<p>既存瓦の再利用範囲(案) 既存瓦 再利用部分</p> <p>3号棟</p> <p>2号棟</p> <p>1号棟</p>	<p>○ 棟瓦については、既存の構造及び形状を継承して葺き直す。</p> <p>○ 妻壁や耐力壁と屋根の接合部については、過去に設けられていた金属の水切板と同様の構造を設ける。</p> <p>(過去に設けられていた水切板)</p>



区分	耐震補強等の考え方 (R2詳細調査)	安全対策等工事の内容 (R4実施設計)
非構造部材の修繕等	<p>⑧屋根瓦・下地や軒先(雨樋)部分の撤去・新設等</p> <p>○ 軒先(雨樋)部分は撤去し、新設が必要である。</p>	<p>○ 軒先(雨樋)部分について、西側(市道側)は撤去し、軽量なアルミ製により新設する(色・風合いは現状のものに合わせる)。東側(県工側)は既存のものを生かし、補修により対応する。</p> <p>○ 軒先(雨樋)から側溝などにつながる縦樋については、既存の樋と同じ個所に現状の色に合わせたアルミ製で新設する。</p> 
	<p>○ 屋根スラブの防水補修(RC部分的打替え)が必要である。(早急な対応が必要)</p>	<p>○ 屋根スラブを打ち替える必要はなく、樹脂による亀裂補修を行う。</p>
<p>⑨鉄扉の落下防止対策</p> <p>○ 蝶番が腐食等している鉄扉について、落下防止のための固定等が必要である。(早急な対応が必要)</p>  	<p>○ 鉄扉の損傷程度により仕分けを行い、蝶番の腐食が進んでいるものは撤去し、内部保管する。残りは残置した上で、ネットによる落下防止を行う。</p>	

区分	耐震補強等の考え方（R2詳細調査）	安全対策等工事の内容（R4実施設計）
非構造部材の修繕等	<p>⑩雨水等の浸入防止</p> <p>○ 雨水が浸入する窓、扉、天窓等に、仮木製止水板を設置する必要がある。</p>	<p>○ 窓については、既存の木製建具を撤去し、ポリカーボネートとアルミによる仮窓を設置する。</p> <p>○ 窓の一部は、換気を考慮し、アルミ製引き違い窓とする。</p>
		<p>○ 天窓については、アルミ建具に交換し、複層ガラスとする。（一部開閉式）。</p>

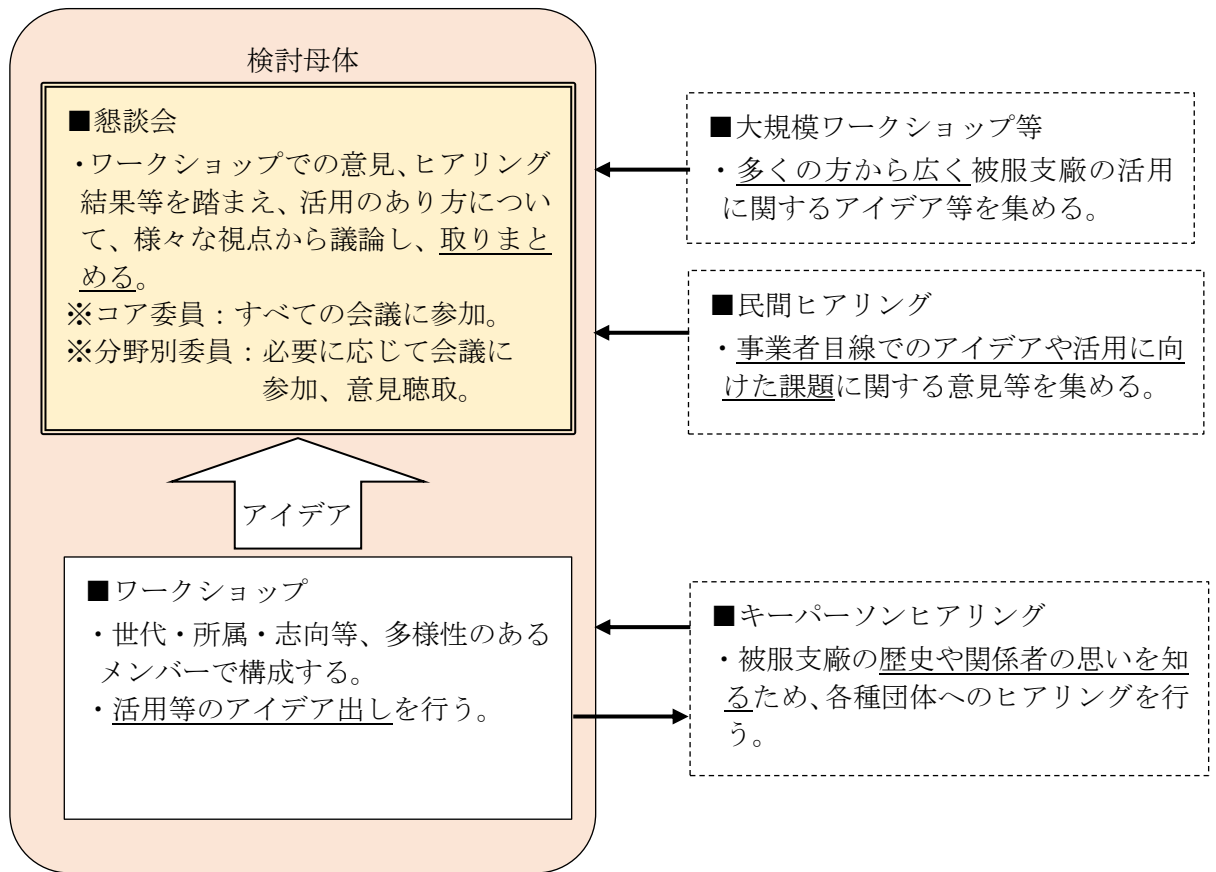


【参考1】被服支廠に係る検討の経過について

区分	安全対策・重要文化財指定	活用の方向性検討	
		懇談会	ワークショップ
令和3年度	<b>第1回検討会議(2/7)</b> ・安全対策に係る実施設計及び建築物の価値調査について、取組方針を説明し、意見聴取	<b>第1回懇談会(11/10)</b> ・検討プロセス	<b>第1回ワークショップ(1/30)</b> ・被服支廠に係る情報提供  <b>第2回ワークショップ(3/13)</b> ・キーパーソンヒアリング ・活用に当たって必要な視点
		<b>第2回懇談会(1/26)</b> ・被服支廠に係る情報提供	
		<b>第3回懇談会(3/22)</b> ・活用アイデアの提供 ・検討ポイントや基本的な方針	
令和4年度	<b>第2回検討会議(10/24)</b> ・安全対策に係る実施設計及び建築物の価値調査について、進捗状況を説明し、意見聴取  <b>第3回検討会議(3/18)</b> ・安全対策に係る実施設計及び建築物の価値調査の結果を説明し、意見聴取	<b>第4回懇談会(7/24)</b> ・活用テーマや活用アイデアの意見交換	<b>大規模ワークショップ(4/17)</b> ・活用のアイデアの意見交換  <b>第3回ワークショップ(6/11)</b> ・活用のアイデアの意見交換
		<b>第5回懇談会(12/21)</b> ・活用の方向性のとりまとめに向けた意見交換	<b>第4回ワークショップ(8/27)</b> ・活用し続けるために必要な取組について意見交換
		<b>第6回懇談会(3/13)</b> ・活用の方向性のとりまとめ	<b>懇談会とワークショップメンバー等の意見交換会(11/12)</b>

【参考2】活用の方向性に係る検討体制等

〔検討体制〕



〔活用の方向性に係る懇談会委員〕

a 懇談会コア委員

(五十音順。敬称略)

氏名	所属等	専門分野
あ べ りょう 安 部 良	安部良アトリエ一級建築士事務所 主宰 総務省地域力創造アドバイザー	建築
おか だ まさあき 岡 田 昌 彰	近畿大学 社会環境工学科 教授	景観工学 産業遺産
さ だ のりこ 佐 渡 紀 子	広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授	国際政治・平和学
た なか なおと 田 中 尚 人	熊本大学 熊本創生推進機構 准教授	公共空間 マネジメント
つみ やま 積 山 ミ サ	ひろしまインターネット美術館 理事 PRESENTsHIROSHIMA 理事長	文化・芸術
ひら お じゅん べい 平 尾 順 平	特定非営利活動法人 ひろしまジン大学 代表理事	地域・まちづくり
まえ の やよい 前 野 やよい	広島市郷土資料館 主幹学芸員	郷土史
みつ い わたる 光 井 渉	東京藝術大学 美術学部 建築科 教授	日本建築史 文化財保存

(委員の氏名、所属等については、令和3年度委嘱時点の内容を記載。)

b 懇談会分野別委員

(五十音順。敬称略)

氏名	所属等	分野
え なつ まさ あき 江夏正晃	株式会社マリモレコーズ 代表取締役 関西学院大学 総合政策学部 非常勤講師	音楽・映像
え なつ よし ひろ 江夏由洋	株式会社マリモレコーズ 専務取締役 元 立教大学 映像身体学科 兼任講師	
おお の たか し 大野貴嗣	一般社団法人広島青年会議所理事長	若手経営者
せり ざわ たか し 芹沢高志	P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター	アート
たか た まこと 高田真	アーキワーク広島 代表	まちづくり団体
とき おか そう た 時岡壮太	株式会社デキタ 代表取締役	民間活用 (民間視点)
なか にし いわお 中西巖	旧被服支廠の保全を願う懇談会 代表	住民団体
にし ざき とも こ 西崎智子	広島フィルムコミッション	映画・発信
ポール ウォルシュ	株式会社 JizoHat 代表取締役 GetHiroshima 編集長	インバウンド観光
み まき とし ゆき 箕牧智之	広島県原爆被害者団体協議会理事長	被爆者団体
やま ざき じょう し 山崎譲史	一般社団法人地域Eスポーツ教育推進協会 代表理事	Eスポーツ
よし なが はる ゆき 吉長成恭	一般社団法人ちゅうごく PPP ・PFI 推進機構 代表理事	民間活用 (公的視点)

(委員の氏名、所属等については、令和3年度委嘱時点の内容を記載。)

【参考3】安全対策・価値調査等検討会議委員

(五十音順。敬称略)

氏名	所属等	専門分野
おおくぼ たかあき 大久保孝昭	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授	建物構造・材料
くすのき こう いち 楠浩一	東京大学 地震研究所 災害科学系研究部門 教授	耐震工学 建築構造
ご とう おさむ 後藤治	工学院大学 理事長	歴史的建造物修復 建築史
ちだ たけし 千田武志	広島国際大学 客員教授	日本軍事史 近代日本経済史
なか がわ たけし 中川武	早稲田大学 理工学術院 名誉教授 博物館明治村館長	歴史的建造物修復 建築史
はせがわ なおじ 長谷川直司	国土交通省 国土技術政策総合研究所 シニアフェロー	建築構工法 煉瓦造構法
ふじた めいじ 藤田盟児	奈良女子大学 生活環境学部住環境学科 教授	都市建築史

(委員の氏名、所属等については、令和3年度委嘱時点の内容を記載。)

【参考4】旧広島陸軍被服支廠に係る経緯

年		摘 要
大正2	1913	竣工。陸軍被服支廠（現在109年経過） 陸軍兵士の軍服・軍靴等の製造と貯蔵を担う。
昭和20	1945	被爆 被爆者の臨時救護所として使用
昭和21	1946	広島高等師範学校（現在の広島大学教育学部）として使用
昭和27	1952	国立広島大学整備のため、交換により、大蔵省から3棟を取得
昭和31	1956	日本通運に貸付け（H7年3月まで約40年間）
平成6	1994	広島市が被爆建物として登録
		<p><b>■この間、様々な利活用構想が検討されるが、実現には至っていない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海文化博物館（仮称）構想（H7 県）</li> <li>・エルミタージュ美術館分館誘致構想（H12 県）</li> <li>・折り鶴ミュージアム（仮称）構想（H23 広島市）</li> </ul>
平成30	2018	<p>○耐震性能等調査結果「震度6強の地震で倒壊する可能性」（30年1月）</p> <p>○耐震改修試算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部利用（博物館等） 1棟約33億円、3棟で100億円</li> <li>・建物保存のみ 1棟約28億円、3棟で84億円</li> </ul> <p><b>■大阪府北部地震のブロック塀倒壊事故（30年6月）</b></p>
令和元	2019	建物の安全性の確保と建物が有する価値等を考慮して、「1棟保存・2棟解体」の対応方針案を示す。
令和2	2020	<p>煉瓦壁の倒壊防止を目的として、建物壁面補強調査・実施設計業務を実施（2年1月～2年9月）</p> <p>⇒調査の中で、煉瓦壁の強度が高いことが判明（2年5月）</p> <p>煉瓦壁の強度を踏まえ、改めて建物の詳細調査を実施（2年10月～12月）</p> <p><b>■煉瓦壁は地震等による倒壊の恐れはないものの各棟の妻壁補強や屋根瓦の葺替えなどの早急な対応が必要</b></p> <p><b>■国指定の重要文化財級の価値がある</b></p> <p><b>■概算工事費：1棟約5.8億円、3棟で17.4億円</b></p>
令和3	2021	<p>詳細調査結果を踏まえて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要文化財級の価値があり、建物の解体を俎上に載せることは適当でないこと。</li> <li>○概算工事費は、低減される見込みであること。</li> <li>○広島市からは、3棟保存を求められていること。</li> </ul> <p>⇒「1棟保存、2棟解体」の現行方針案の見直しも含め、最終的な方向性を検討・整理するとの方針を示す。</p>
県議会2月定例会		
県議会6月定例会		<p>早急に実施する必要がある安全対策等の予算を提案し可決・成立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○安全対策に係る建物3棟の実実施設計</li> <li>○重要文化財の指定に向けた建築物の価値調査</li> <li>○活用の方向性のとりまとめに向けた検討</li> </ul> <p>} 令和5年3月末で完了</p>
令和5	2023	安全対策等の実施に向けて必要な検討に着手